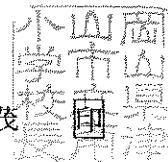


(様式)

平成25年度 津山市立南小学校 学校評価書

校長 永 禮 茂



1 自己評価

I 評価結果

学校全体としては落ち着いた生活ができています。あいさつもかなりできるようになってきたが、自らできるという高いレベルではない。しつけも含め家庭からであるが、家庭・地域・学校の三者が共通理解の上で取り組まなければならない。

学力向上に向けては研究指定を受け取り組んできたが、指導力の向上や家庭との連携が求められる。数年ぶりに欠席ゼロの日があるなど、子ども自身の意識改革や保護者の協力のおかげである。姉妹校交流事業が無事成功したのは携わっていただいた全ての人ののおかげである。

II 分析・改善方策

「わかる授業・学ぶよろこび・楽しい学校」づくりを目指す。職員の指導力向上のため先進校視察や校内研の充実を目指したい。けじめのある生活を展開するために、チャイムの厳守や正しい言葉遣いを徹底したい。家庭学習については、保護者に改めて協力をお願いしていく。

全職員が課題解決に向けて同じベクトルで取組を展開したいと思う。

2 学校関係者評価委員会

春名啓介（元青少年育成センター所長）

松本雅裕（福岡保育園副園長）

有岡誠一（元PTA会長）

溝口博一（見守り隊 安全ボランティア）

大山裕美子（児童クラブ指導員）

服部恵子（PTA副会長）

3 学校関係者評価

以前と比べるとかなり良くなってきた。評価項目ではおおむね良いが、まだまだ課題は多い。児童の実態を正確に把握しながら、対応対策を考えなければならない。物質的には豊かになったが、精神的心理的には貧しくなったように思われる。これらを豊かに温かくすることが、今の学校に求められている。

子どもたちには地域で育てられているという感覚は少ないのではないか。地域でのつながりが希薄化している。地域と学校の連携をさらに推進したい。

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

「どの子にとっても、楽しい学校」をめざそう

1 分かる授業の工夫、基礎学力・表現力の向上

- ・ わかる授業の工夫（学習のめあてとまとめを大切にした授業づくり）
- ・ 言語活動の充実（発表の仕方・ペアや小グループから学級全体での対話へ）
- ・ 学習規律の定着（姿勢、話の聞き方、発表の仕方等）

2 生きる力（児童の自治力）の育成

- ・ 子どもたちの主体的な活動（委員会、なかよし班活動）
- ・ 学級会の進め方や話し合いの仕方の向上
- ・ よりよい人間関係づくり
- ・ 学習したことのまとめと発信

3 基本的生活習慣の定着

- ・ 「南小10の約束」の定着
- ・ 「気持ちのよい学校」づくり（気持ちのよい「あいさつ」「言葉づかい」「校舎」）